

1. 題材名 道案内 - 乗り物での行き方を尋ねる・教える
 (New Horizon English Course 3 Speaking Plus 3)

2. 本時の学習

(1) 本時の目標 乗り物を使って目的地に行く方法を尋ねたり、説明したりするために必要な表現を考え出して表現集をつくらることができる。

(2) 展開 発展的な支援 基本を定着させるための支援

学習活動	時間	支援・指導上の留意点	評価項目(観点)・方法
あいさつ Dictation Test	5分	毎時間行っている積み重ね学習である Dictation Test を行い、英語学習への雰囲気をつくる。 Dictation Test は2年の教科書から道案内の対話文を範囲とし、本時の学習への復習となるようにする。	
【つかむ】 「新治中学校の前で道に迷った外国人観光客に、前橋駅までどう行くのか尋ねられる」という場面を想定し、本時の学習目標をつかむ。	7分	生徒にとって現実的で身近な場面を取り上げることで、より実践的なコミュニケーションに近づけたい。 道案内という課題に対する説明方法を考え、本時の学習目標を達成するための学習課題をつかめるようにする。	
【たてる】 グループで協力して、道案内に必要な英語表現を考える。 グループで考えた表現を黒板掲示し、場面ごとに分類して読む練習を行う。 クラスで考え出した表現をワークシートにまとめ、道案内に必要な表現集をつくる。	33分	地理的知識の補助とするため、近郊の路線図を用意する。 協力して学習し、学び合えるように、3 - 4人のグループで表現を考え、黒板掲示用カードに書かせる。 JTE は机間支援を行い、説明の手順や経路を思いつかないグループに、アドバイスをを行う。 ALT は机間支援を行い、英語の表現が思いつかないグループにアドバイスをを行う。 道案内の表現を英語で書けない班には、説明を短く区切って考えるようにアドバイスする。 基本的な道案内の表現がすぐに書けた班には、道案内で他に聞かれそうなこと(料金、時間、通過駅数など)を予想し、答え方も考えて書くように指示する。 同じ伝達場面でも、表現のバリエーションがあることを認識できるようにする。 掲示された表現は、ALT がネイティブチェックを行い完璧にする。特に、冠詞や"Change trains"の複数形などに着目できるようにする。 書く時間を確保し、表現、スペルなどの定着を図る。 早く書き終わった生徒には、自分のワークシートを活用して、覚えるように指示をする。	〔コミュニケーションへの関心・意欲・態度〕 A: 乗り物を使った道案内に必要な表現を、グループの中心になって積極的に考えることができる。 B: 乗り物を使った道案内に必要な表現を、グループメンバーと協力して考えることができる。
本時の学習をふりかえり、次回は表現集を使って実際に道案内をすることを把握する。	5分	次回の活動に向けて、家で表現集を復習できると良い旨を伝え、各自の課題をもたせたい。	